

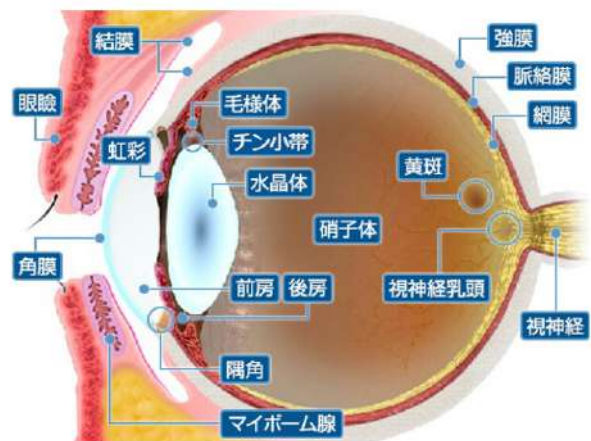
「ゆがんで見える」その症状、加齢黄斑変性かも

府中アイセンター 医長 上野 寛

加齢黄斑変性とは？

人口の高齢化や食生活の欧米化により、欧米で成人の失明原因の1位である『加齢黄斑変性』という病気が日本で増加しています。症状としては、視界がゆがんで見えたり、中心部が暗く見えたりし、50歳代以上の方の約1.3%（約70万人）には、この症状が見られ年々増加傾向にあるそうです。

加齢黄斑変性は大きく分けて萎縮型と滲出型があります。萎縮型は加齢とともに網膜の組織が萎縮する病気で、視力が徐々に低下します。萎縮型には現時点で効果的な治療はありません。対して、滲出型は網膜の外側にある脈絡膜に異常な血管である新生血管が出来て、それが網膜に侵入し、視機能障害を起こします。新生血管から血液成分が漏れ出し、網膜が腫れることで、ゆがみが出ます。新生血管は脆く、破れて出血することで視力が低下することもあり、大きな出血であれば急激に視力は低下します。



参照元：https://www.senju.co.jp/consumer/note/disease_amd.html
(千寿製薬株式会社)

現代日本で加齢黄斑変性が増加している背景

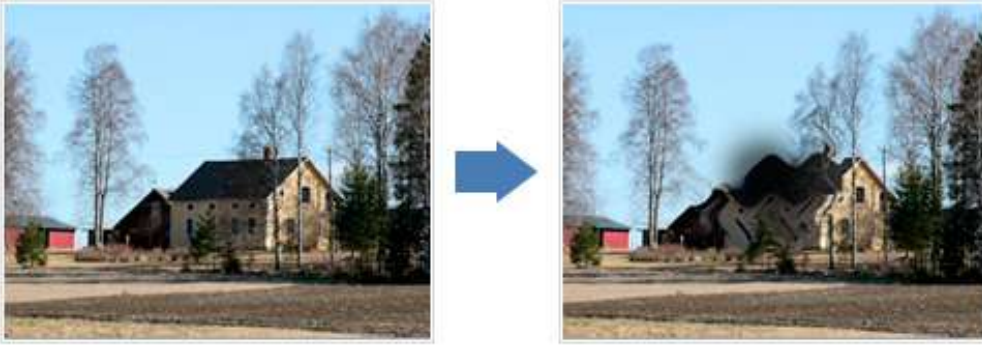
名前の通り加齢黄斑変性は加齢が主な原因とされ、高齢者人口の増加に伴って増えています。その他にも生活習慣（喫煙、紫外線、食生活など）や全身疾患（高血圧、脂質異常）などが関係しています。

加齢黄斑変性の特徴（失明）について

ある日突然見えにくくなる事もある病気で、発症早期から見え方の異常があることが多いです。初期の症状としてゆがんで見えたり、見たいところが暗く見えるなどの症状が起こりやすく、気づいたらすぐに眼科にかかることをお勧めします。

【加齢黄斑変性の見え方シミュレーション】

中心部が暗くぼやけ、ゆがんで見えます。



参照元：https://www.senju.co.jp/consumer/note/disease_amd.html
(千寿製薬株式会社)

加齢黄斑変性の治療法

治療は薬物療法（硝子体内注射）、光線力学的療法（PDT）、レーザー凝固、手術などがあります。

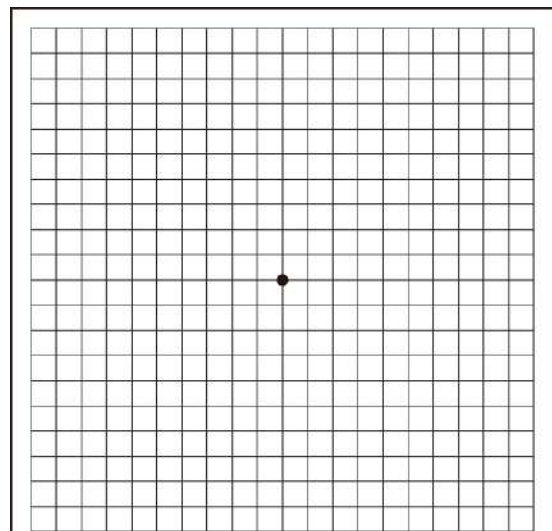
メディカルレチナ治療について

現在、加齢黄斑変性の治療として、主に薬物療法（硝子体内注射）が行われています。滲出型の加齢黄斑変性では新生血管という異常血管ができるとお話ししました。その新生血管の増殖を促す原因の一つとして血管増殖因子（VEGF）が知られています。この治療は、そのVEGFの働きを妨げる薬剤を眼の中に注射することで病気の活動性を抑えます。治療は日帰りで消毒・点眼麻酔の後、白目（結膜）に注射をさせて眼球内に薬剤を注入します。薬は眼球内に留まり効果は数週間持続します。治療開始後は、導入期として1カ月毎に3回注射することが多いです。導入後は個々の状態に応じて治療方針が異なりますが、悪化した際に注射を追加する、もしくは計画的な注射を継続していきます。

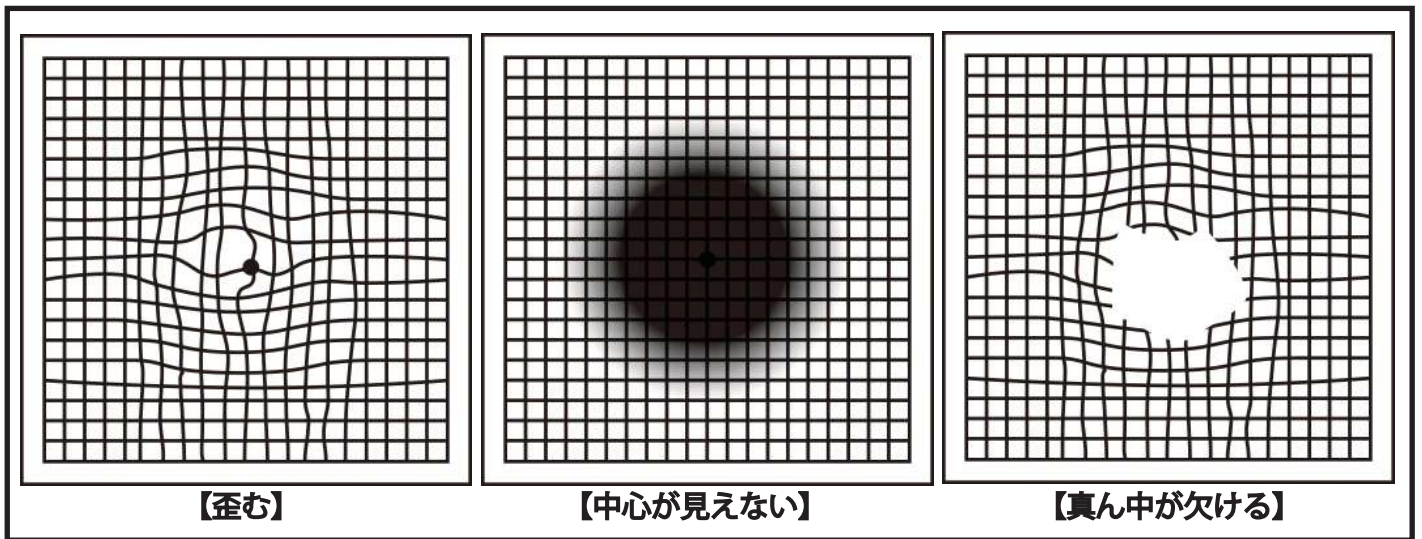
早期発見するには？

50歳を過ぎたら普段から見え方の異常を意識し、異常に気付いたらすぐに受診することが大切です。両眼に起こり得る病気ですが、片眼だけに発症すると健康な方の眼が見え方を補うことで症状に気づかないこともあります。ですから、片眼を閉じて左右交互に見え方を確認することが大事です。

【自覚症状の簡単なチェック法】

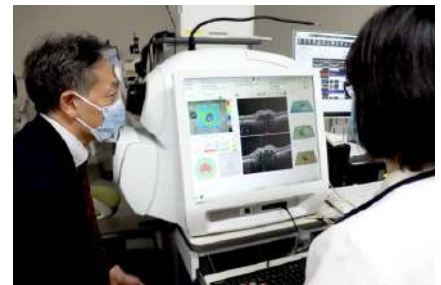


目線は中央の黒点におきます。目線を黒点においたままで、表の四隅はしっかりありますか？
格子状の線は真っ直ぐな直線になっていますか？
どこか歪んでいたり、欠けていたりはありませんか？



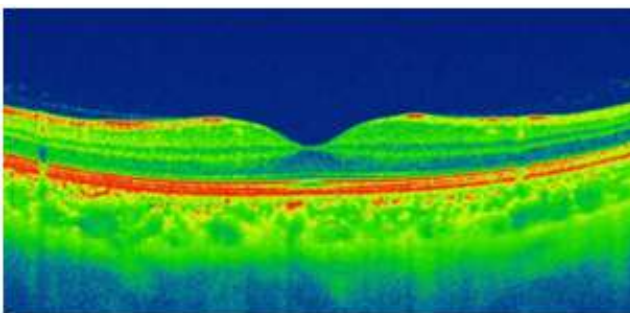
加齢黄斑変性の検査

視力検査など一般的な眼科検査と問診などから滲出型加齢黄斑変性が疑われた場合、さらに詳しい眼底検査、特に黄斑部を詳細に調べます。眼底の詳細な診察、光干渉断層計（OCT）や蛍光眼底造影検査で診断を進めます。OCTは、網膜やさらに奥の組織の断面を撮影し、立体的に病変を捉えることができます。蛍光眼底造影検査は造影剤を点滴しながら眼底を撮影することで、新生血管の有無や広がり、活動性を評価します。治療が始まった後も治療効果の評価、再燃など病気の活動性を評価するために定期的な診察と検査が行われます。特にOCTは体に負担をかけずに検査できるため、頻繁に行われます。

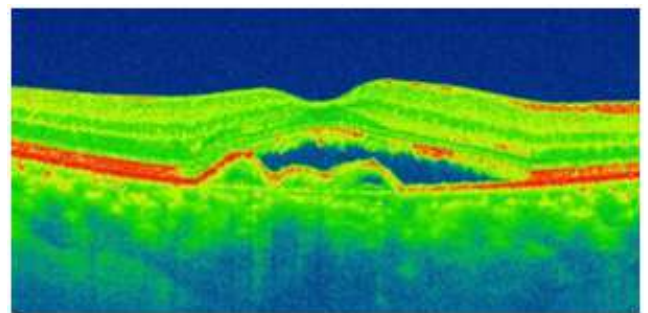


光干渉断層計（OCT：optical coherence tomography）は、網膜の断層画像を撮影する検査です。赤外線を照射し、眼底からの反射光と参照光をもとに光の干渉現象を利用して画像化したものです。

【正常な黄斑 OCT 画像】



【加齢黄斑変性の OCT 画像】



今月の担当医師



府中アイセンター 医長
上野 覚(うえの さとる)

〈専門〉
一般眼科・メディカルレチナ

〈資格〉
日本眼科学会専門医
PDT 認定医
難病指定医
医学博士



ご登録医院の先生方へ
ご案内です！



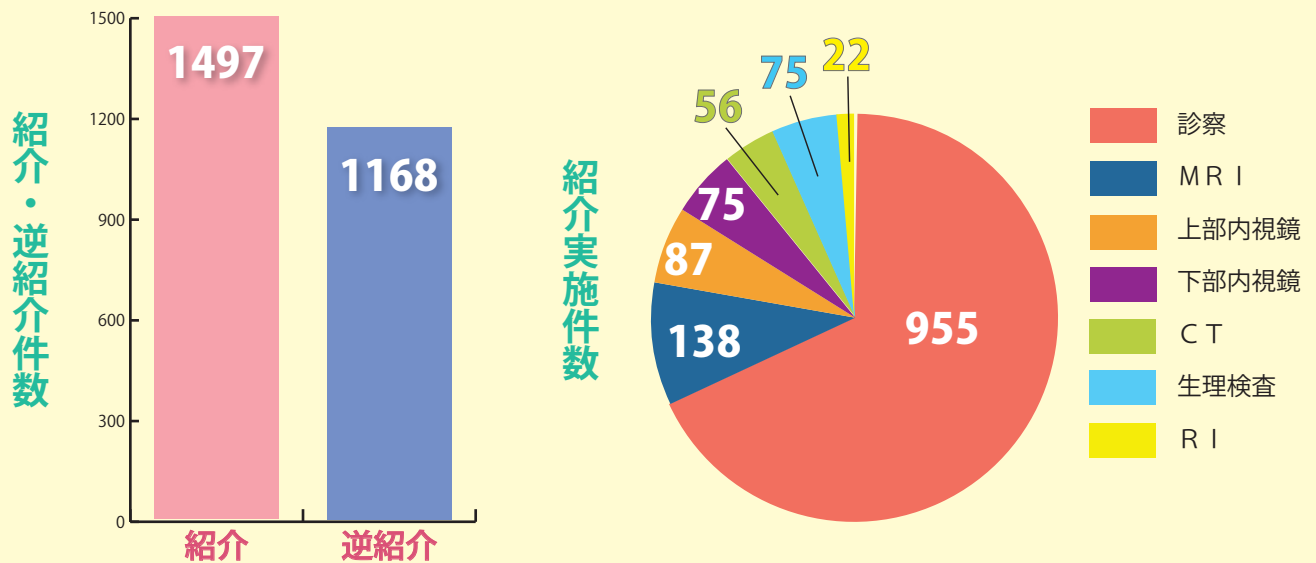
送迎サービスのご案内

登録医の先生方に送迎サービスのご案内をさせていただきます。
紹介患者様が当院を受診される際、ご自宅(玄関先)から府中病院
まで、車での送迎をさせていただきます。ご高齢の方で交通手段が
ない方・足の不自由な方などを対象に、ご希望がございましたら
予約時に地域医療連携室までお申し付けください。



送迎範囲	和泉市・泉大津市・高石市・忠岡町・岸和田市 (上記以外の地域の方はご相談ください。)
対象検査	<ul style="list-style-type: none"> ・MRI ・CT ・胃カメラ ・生理検査(超音波検査など) (その他の検査はご相談ください。) ※診察、大腸カメラは終了時刻に個人差がある為、送迎は承っておりません。

紹介実績<2021年5月>



府中病院
ホームページ



府中病院
facebook



生長会イメージキャラクター
にこまる

2021年6月・216号 ネットわーく

発行責任者：院長 竹内一浩
編集責任者：地域連携部 家口尚
編集者：地域医療連携室 久松舞子
〒594-0076 和泉市肥子町1丁目10番17号 府中病院 地域医療連携室
TEL：0725-40-2147 予約専用フリーダイヤル：0120-40-2147
FAX：0725-40-2148 E-mail：chiikirenkei@fh.seichokai.or.jp

私たちの理念

愛の医療と福祉の実現。
地域と職員と共に栄えるチーム
Yu・ki・to・do・ku ゆき届いたサービス

私たちの基本方針

チームとして、そしてパートナーとして
チャレンジします。
3つのベストにチャレンジします。